



生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

その他

移り変わる日の光に

投稿日：2014.01.31 ニックネーム：hon no mushi

春の日差しに一瞬気をとられている際に「生きている」ことについてある考えが思い浮かびました。

普段の生活で気にも留めないことですが…

今を生きるのに精一杯の時、明日のことなど考えられず、重点は今日一日に置かれています。これが生活に余裕ができてくると、明日のこと、一年後のこと、昔のことなどに想いが及びます。その度合いが前者に近いと本能的で他の生物に近くなり、後者だと人間特有になってくるのだと感じます。

ケストナーの生家は素通りしてしまいましたが、二人のロツテを数学的同一視し、位相空間を組み立てる話をしました。全く同じDNA鎖を持っていたにしても、別の階層で違う条件が積み重なり、二人を入れ替えるような接点が生まれたとき、ねじれてこじれた（位相空間に紛れ込むという）話に…。

で、その全体像をなす時空間に自分がハマって（迂闊にも乗って）いると「気付いた」時、ガシャーんと何かが割れるようにこじれが解消する。（密画的世界から一気に略画的世界が見えてきたときですね）

でも、それは我々、一人一人にも言えるのではないか、いや、DNAを持つ生き物全てに言えるのではないか。

自分が持っているDNAでも、昨日のDNAと今日のDNAは違うのではないか。更に細かく一瞬一瞬異なっているのではないか。また、空間的に散らばるDNAだって…

物質的にはほとんど、いや全く変わっていないかもしれませんが。…でも、私は気付いたのです。それを同じものだと見てはいけないのだと。

DNA双六の話を出しましたが、イメージ的には、直線的でなく（それは物理空間で直線ということではない）、サイコロの対がつながるたびに少し「ずれる」（これも物理的にはではなく…）。それは、物質としてのDNA鎖がたとえ次の瞬間に、全く同じ物質のままであり続けたとしても、別のどこかの階層の異なる条件が「響いて」きて、強引に同一視しようとする「ねじれた」ことになる、のと同じです。

しかしそうやって命は続いてゆくのだと…思うのです。ねじれ、よじれながら移り変わってゆく。ただ、その全体の姿に気付いているかどうかだけ…

その他

言葉遣いを変えて新鮮に—それは文化の源泉に

投稿日：2014.01.30 ニックネーム：hon no mushi

誠にでしゃばりですが先々回の補追です…同時多発テロが起きる前にヨーロッパを旅して、あの頃は平和だったなーと、プロイスラー作『クラバート』の舞台になったヴェンド語が話されていたくにを思い返しながら—

…表現はくりかえせば、陳腐になる危険がある。しかし、表現がある「意味」を内包できるようになるには、どうしても、くりかえし使われるという慣用が条件になる…意味とは慣用が生じる伝達上の効果のこと…



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプリー開催(19.10.01)

…機械が一から十まで準備してくれた料理を人間がただ鵜呑みにするような表現伝達…そういうところに…感動がおこるのであるのか
ものごとを表現するに当たって…世阿弥が『花鏡』の中で「先聞後見」ということを言っている…まず、言葉をきかせて、しかる後に所作を見せよと教えたもので…問題は…「聞く」と「見る」をシンクロナイズさせないで不同調にしておくという点…
本来は表裏一体をなしている音と像を切断して、時差をつけてずらす不同調表現は、受け手に一瞬の戸惑いを感じさせ…複次的なあいまいさが生まれる。このあいまいさが、受け手の心の中で同調化され、翻訳されて行くプロセスの間で表現のおもしろさがおのずから感じられる。立体的な深みといったものにもじみ出る。
不同調の美学は形式と実体のずれについても…表現と内容との間にも…成立する。内容を正直に伝えるのが同調的ならば、ひねったものが不同調である。芸術的効果をねらうようなときには、まず不同調の表題がつけられる…
いっそう高度の不同調の美学が盛りこまれているのが連句である。…前句に対する付け句の関係は、「匂い」「ひびき」「うつり」などという言葉であらわされるものになるのがよい…これはすなわち、不同調、焦点転移の行なわれている二句が読者の心の中で同調させられて生じる微妙な変化を言いあらわしたもので…。作者が複数であるから…軟焦点的な「にじみ」のような感じをとまなう…
…以上、外山滋比古著『日本語の論理』からでした…



その他

ムヤムヤした夢に近い感じの「予感」

投稿日：2014.01.28 ニックネーム：hon no mushi

響盤を買っておりますが館長の著書を読んでいて…の続きです。

前回引用した本で二人の偉人の遺稿の話を出しましたが、ふと気づいたことがあります。

そこでは遺稿の並べ替え方によって（時系列に並べても、必ずしも本人の意図が汲み取れない、あるいはその逆になる可能性があるのが大変難しい）、天使が舞い降りるか悪魔が顔を出すか（彼ら二人は恐らく一神教の文化環境だったのでまさにそうでしょう）、順序というのは大事。歴史は現在からの照射によってかなり変わってくる、創られるもの（その辺は前掲書で詳しいです）。そこで、館長が前におっしゃっていた「神はサイコロを振るか、どうか」について…

私は以前、DNA分子をサイコロ一個に見立てた双六について申しましたが、神はサイコロを振らないのではない、既に振られたサイコロの、任意の長さの列を並べ替えるだけではないか、と。同じ組み合わせが何度も繰り返されることもあるでしょう。一個増やす時、減らす時もある。歴史が詰まっていた、それは比較によってあぶり出すもの、そして、その時点で歴史は作られる！（そこがまさに前の本のような言葉を見直す作業が、いま、ここにいる人によってしかできないのと同じ…生きている者が気付くかどうかにかかっています）。文化の集大成である言葉も常に気を付けていなければ惰性で流されてしまう（流れに棹させば流される…という言葉は、卓という女傑に木がある（←気がある）のを漱石がアナグラムのように文章に潜めたくだりと聞きました）。

しかし、東北の大震災以降、私は電気の使い過ぎを気にして夜に読書することが無くなりました。…が、睡眠はしっかりとれるようになって、今までは将来の「予測」や「想定」に基づいていたものが「予感」にとって代わられました。このような話は無視されるでしょうけれど…



中村桂子の「ちょっと一言」

言葉遣い…ちょっと変えても新鮮！

投稿日：2014.01.26 ニックネーム：hon no mushi

別々の生活に入った二人のロツテ、強引に生物学的同一視をするとねじれた壺のような檻に閉じ込められ…と相変わらず響盤を買って投稿しており、『ソシュールを読む』からも引用しましたが、気掛りなことがあります。

ソシュールの遺稿はバラバラで、それを順序よく編めるかどうかで全く解釈が異なってしまう（パスカルの遺稿もそう）と前掲書で注意されていましたが、まるでアナグラム（日本語で言うと谷川俊太郎さんの言葉遊び歌、みたいな感じ…）。そこで『科学者が人間であること』と今回の一言、「言葉」と切出されるとなかなかとっつきにくく、どう返答したらよいかわからない。「言語」

というと更に学者コトバ、密画の世界。普段の日常生活を考えると、「言葉遣い」が馴染みやすくソシユールの云う「パロール」、「言葉」は実は「ラング」に相当し、「言語（活動他一般）」は「ランガージュ」（「ラング」は惰性的に降り積もった文化的遺構の語彙集で、紋切り型でありきたりなもの、「死物化」した化石。これに息を吹き込んで受肉させることができるのが「パロール」、ということなので）。そして、人が発話する瞬間、お喋りの際などに出てくる言葉と意味は表裏一体、強く文化的制約を受けている…ので、訳のわからない変な言葉が飛び出すと笑われる。でもそれは大事な人間の資質、かき混ぜていない糠味噌のような文化に風穴を開ける契機を与える、詩人の素質。そこが中沢先生も指摘する重要なポイント、生きている自然が人間の体を通し、硬直した文化に新しい息吹をフッと。私がよく引用する進撃の巨人では大柄な野生的女の子が肩の力を抜いたように吐き出すように、またそれは賢治の言葉遣いにも見られる。これもよく引用する『はてしない物語』はそれを分かり易い言葉で示した、哲学・思想的風味の、純粋に詩的な言葉を模索する物語。…思えば「ラング」のような習慣化された言葉しか使えない経済学者は市井の人には魅力がなく、ツマラナイ。マルクスは違って、理論は少しおかしけれど、生身の言葉で書いた。そこがウケたのだと思います。

お返事

投稿日：2014.01.31 名前：中村桂子館長

確かに自分の言葉、生身の言葉で話したり書いたりすることは大事ですね。そうではない言葉を次から次へと発する方がいらしてどうなることかと思えます。



中村桂子の「ちょっと一言」

言葉を大切にすることについて

投稿日：2014.01.23 ニックネーム：のり

中村館長の1月15日付「ちょっと一言」を読んで、言葉に関わる仕事をしていることもあって、感想を持ちました。自分が住んでいる町はまさに多言語環境と言ってよいところで、日常の会話は英語ですが、私の連れはウェールズ人で故郷に帰るとウェールズ語です。私は一向にわかりませんが、友達のお子さん（5歳の女の子）が、かわいそうに思っただけか、色の名前を教えてくださいました。三日間くらい覚えていました。近くにエティオピアレストランがあって、そのメニューは自分に読めない文字が書いてありました。聞いているだけ、見ているだけではどうもほかの言葉は自分のものにならないようです。

私は英語に基づくものの考え方は嫌いではありません。物事を客体的にとらえて、自分との距離を置くやりかたは、自分を対象化するのに役立ちます。それに比して、絶えず自分の内面にある視点から物事を描き出し、絶えず他者に同意を求め、対人関係や聞き手への評価、親疎をつねに抱き合わせにしないと表現ができない仕組みになっている、現代の東京語は、気遣いが多く疲れます。それ以上に、気になっているのは、最近の日本語の変化の傾向で、意味内容を曖昧にして責任逃れをする表現、言い訳をしたらその後で何を言ってもいいという考え方、きちんと物事を表現しないで仲間内のなあなあで相手に理解を求める甘えた表現、内容がないのにもっともらしく聞こえる新語を多用する表現などが、話し言葉、書き言葉を問わず、満ちあふれていることです。また、「背中を押す」「相手に寄り添う」という言葉が好感を持って多用されているのも気にかかります。

日本人の使う英語、あるいは外来語の多用は、そういう現代の日本人の発想に染まって、言葉の本来の意味を大事にしないで、雰囲気だけで理解したような気分になってしまうという意味で、日本語英語に墮していると思います。そこで思うこと、英語を使う機会が増えるのはいいとして、英語を使うに当たっては、かつて中国語を自家薬籠中のものとするために過去の世代が払ったような努力をする必要があるということです。それは、同時に、日本語に向き合っただけで、それをよりすぐれたものに高めていく努力と一体のものだと思います。一世代前、二世代前の日本人は今よりずっと言葉と格闘して多様な表現を作り出していたように思います。

お返事

投稿日：2014.01.28 名前：中村桂子館長

言葉について考えることのたくさんあるメールありがとうございます。言葉はその時の社会の状況を反映するものなので、最近の日本語のあいまいさはとても大きな課題だと思います。私が気になっているのは「〇〇させていただきたいと思えます」という言葉です。この〇〇に”お詫び”まで入っているのですから。テレビの画面でこう言いながら並んで頭を下げている背広姿の人を見ると悪いことをしたとは思っていないなと感じます。謝るなら「お詫びいたします」です。それを「させていただきます」とするのちよっ

とと思っているうちに「させていただきたいと思います」になりました。

付記：実は以前ウェールズに行った時に食べものや身近な家庭用品の絵とそれを表わすウェールズ語の入った壁掛けを買い、今も台所にかけています。本当に英語と全然違いますね。



中村桂子の「ちょっと一言」

夢の話をしていても

投稿日：2014.01.22 ニックネーム：hon no mushi

…嫌われるし嵩んで無駄だと思いながら、引用を続けます。

…記号によって機能人間化されてしまう没主体性という名の不幸—「あるモデルやつくられたコードに順応して自分を価値あらしめること」に見出される独自の非自然的〈指數的価値〉としての美、幸福さえも計量されることによるのみ幸福となるまやかし、…はばをきかす偏差値というシミュラクル（まやかしの模倣）—を告発し…「生きる喜び」を回復させること…

…人間の共同幻想としての「種族のイドラ（幻像）」（人間至上主義）、個人的偏見としての「洞窟のイドラ」〈自民族中心主義、国家主義、党派性〉、情報社会が人びとを操作する擬似イベントとしての「市場のイドラ」の三つを破壊するためには…そういった幻想を客体化している科学という名のフェティッシュ、技術・産業社会の根柢にある合理主義的思考という「劇場のイドラ」批判から出発せねばならない。つまり効用万能というホモ・エコノミクスの発想や…計量的発想を一八〇度転換させる必要がある…

…非日常体験を通しての影の部分への照射…これまで長い間タブー化されていた「おぞましきもの」…非合理的という理由のもとに抑圧されていた夢・無意識・狂気・死の意味を、もう一度捉え直すことである。…現代における生の意味の喪失は、生と互酬性をもつ死の意味の隠蔽とまさに裏腹…

…非記号化活動によって回復されるコトバの身体性なるものが、決して物質性とか物理的状況という意味だけでの実質ではなく、〈言分け構造〉とそれ以前の生ける自然という意味での実質の間を往還する運動であること…構造の生成過程（ゲネシス）とかシーニュの発生状態ということが、言語起源ないしはホミニゼーション（人間化）としての系統発生の問題でもなければ、幼児の言語習得や鏡像段階における自己定立過程といった個体発生的問題でもない…我々は、今、この瞬間においても文化と自然の間に揺れ動き、志向状態でしかない意味のマグマをそのような実践によって受肉させ、思考をperformの原義において完成し成就すること…



中村桂子の「ちょっと一言」

言語空間の次元数について

投稿日：2014.01.19 ニックネーム：弥勒魁

言語についてお書きになっておられましたので、私の考えをご披露させていただきます。

世界の言語は、屈折語・膠着語・孤立語・その他に大別されます。屈折語と言うのは名詞や動詞を格変化させて意味を持たせ、膠着語は格変化の代わりに助詞を使い、孤立語は格変化も助詞も無く語の順序だけで意味を与えます。屈折語にはサンスクリット語、ギリシャ語、ラテン語、現代の欧米語の大半が属し、膠着語には日本語、ハングル、蒙古語などが属し、孤立語には中国語が属します。

人類の歴史を見てみると、どうも科学は屈折語と密接に関係するらしい、と思われまふ。しかも格の数が多いほど高度な思考を育て、格の数が思考空間・言語空間の次元数のようなものではないかと。英語は3格、ドイツ語は4格、ロシア語は6格、ラテン語は7格、サンスクリット語は8格あります。

インドのパラモン（サンスクリット語の使い手）出身のラマヌジャンが、どうやって新しい定理を次々と発見するのかが英国の数学者には判らなかつた、と言われていることがその証明になるのではないのでしょうか？

サンスクリット語は母音・子音ともに50音表の順に並んでいる、ということをお書きおきます。勿論、サンスクリット語の方が母音の数も子音の数も比較にならぬくらいに多いのですが、日本語に対応する部分は完全に50音表そのものです。これをもって日本語の先祖はサンスクリット語、とするのは一寸無理ですかね。でもサンスクリット語は、もう少し研究したら良いと思いますよ。

お返事

投稿日：2014.01.23 名前：中村桂子館長

言葉について考えるのは面白いですね。格のない日本語を話している私があり
まり高度な思考をしていないという一例は認めますが……。それ以外はわ
かりませんというのが実感です。



中村桂子の「ちょっと一言」

小さな女の子が鍵になって…

投稿日：2014.01.17 ニックネーム：hon no mushi

カオスの神髄は最初が一緒でも後交わることがないこと…ロッセの話に続き、
『はてしない物語』『進撃の巨人』の主人公が各々、役割の似た「アウリン」
「座標」という恐ろしいお守りを与えられ、人間と相互乗り入れがないような
本や巨人の世界を旅する…のを彷彿とさせる箇所もあり、引用致します。

…子どもにとって対象物というものは、それが名前をもったときにはじめて知
られる。名前というのは実は事物の本質である、ただ事物の上に貼り付いたら
ベルなどではなくて、事物の中にその色、あるいはその形と同じ資格で住み込
んでしまう…

…走っている電車の中でした…三歳ぐらいの女の子が、「デンシャ、デンシ
ャ」と習いたての単語を…つぶやいては…母親にこうたずねたのです。「ママ、
デンシャって人間なの？それともお人形なの？」

…言語習得によって身につけるものは、そういう（感覚=運動的）自然の分節行
為ではなくて、まことに非自然な分節行為です。…「動くもの、そして柔らかく
温かい感触をもつもの」と、「動かないもの、そして固く冷たい感触をもつもの」
という対立によって生じたカテゴリーにおいては、「人間」と「人形」と
いう概念が無理なく処理されていまして…ところが「デンシャ」というコトバ
を習い、同時にその対象を認識したとき「動きはするが、さわってみると冷た
く固い感触をもつ」新しい指向対象（レフェラン）が登場しました。

…彼女は次第に象徴の森という名の文化のフェティシズムに入っていく。繰り返
し繰り返し命名を通して、知覚と感覚は刻一刻と密になる認識の網目によっ
て再編成を強いられる。事物（世界）と意識（人間）というものが相互に差異
化されていくのです…

…言語はまた、一葉の紙片に比べることができる。思想は表であり、音は裏で
ある、裏を分断せずに同時に表を分断することはできない…



季刊「生命誌」

対談の内容を再現するような本がありまして…

投稿日：2014.01.14 ニックネーム：hon no mushi

元は一緒に暮らしていた双子が、親たちの属する「特定の社会階級の特定の利
益を志向する…」刷り込みによって、『この子一人いれば十分、社会生活に支
障ない』と子供本人のことを無視して同一視すると、歪みや軋みが生じ…それ
が解けるのは…という前回の話の流れは、別の表現では、

「人間がたとえゲノムという〈実質〉substanceに支えられてはいても、その
本質は〈形相〉formeという関係の網である…。この関係が変わるという意味で
の関与的な変化は、偶然的出来事が体系に組みこまれることで…体系内のバラ
ンスが崩れ、構造の再布置化が行われる」

「コトバをもつ以前には〈身分け構造〉（…ユクスキュルの環境世界の概念と
重なる…シンボル操作以前の感覚=運動的分節によって生れる第一のゲシュタル
ト）が過不足なく掬ってくれていた自然が、文化の網では掬い切れないカオ
スとして存在し始め、これが日常の生活にまで氾濫する。文化の秩序はこれを
抑圧し、〈言分け構造〉（…ネガティブな差異を用いて関係を創り出す非在の
世界を言分ける、第二のゲシュタルト）の分節を押しつけようとするが、人は
内より湧き上る欲動と文化のタブーの間で分裂し…」

「本当に〈生きられる世界〉においては…ある愛情が、もう一つの愛情の自乗
である…とかいう計量化は不可能」

…となるのでしょうか（『ソシユールを読む』より…ただ、冒頭の「人間」
「ゲノム」は「言語」「音声」の置き換えです）。もう一つ、中沢先生とのお
話とかぶる表現が…

「（コトバや文化の）非自然という正体をとことん暴くことによって…客観と
か主観というものがまだ分けられる以前の生ける自然、意識と世界の未分化状
態に見出される生ける自然の側からもう一度私たちのつくり上げてしまった
〈コト〉の世界を照射し直す必要があるのではないか」



季刊「生命誌」

投稿日：2014.01.12 ニックネーム：hon no mushi

中沢先生と館長のご対談について…前回、位相構造体をつくる前提となる、数学的同値の3条件について挙げましたが、その第一‘存在’は…正確には同一性の担保のことです。それを踏まえ、もう一度挙げますと、

- ①A?A
- ②A?B⇒B?A
- ③A?B、B?C⇒A?C

ただし、A～Cは要素、?は要素同士の関係を表します。

…これを思い返すうちに、例えば要素を生き物とし、?は<同一のゲノムを持つ>関係としたら…この三条件を数学的に満たします。

…要素が竹だったら、竹藪全部「同値」（個体数は無数ですが、挿し木で増やした株同様、大抵クローンだから）。一卵性の動物も全て「同値」。<同一のゲノムを持つ>という関係だけにこだわると、例えば一卵性双生児は、重複を避けるために「同一視」されてしまうということです。でも、それがライオンの子であっても、自然界の生き物は、絶対に二人の子を同一視したりしない。二人とも別々の命を持っているから。

…そこに「野生の科学」と生命誌に共通の「階層性」が妙味をみせているようで…別の階層が効いて、上の判断を妨げます。その一例を挙げます。

一卵性双生児の女の子。両親が別居する時に一人ずつ片親に引き取られ、以来、各片親はもう一方と意識して一定の距離をとっており、子は自分がついた方に引きずられるようにして会うことはない。…ジグザグな平行線を描くように時を経過し、同時点で決して空間的に重ならない生活の軌跡…

ここで運命の悪戯か、別れた双子を「同一視」するような関係性を持ち込むと、この親子は、クラインの壺という（時間軸と別の軸で対称でない）ねじれた位相空間上をさまよっているということになります。

…ところがこの壺が壊れる時がある。片親が、自分の連れ子がもう一方の子と「自然に」入れ替わっていると気付いた時、ねじれが一気にほどけます…それが、『二人のロツテ』ですね（この瞬間全てがわかって感動します）。



中村桂子の「ちょっと一言」

“いのちにとってどうでしょう”

投稿日：2014.01.07 名前：杉山 昭夫

昨年の11月に生命誌研究館で中村先生とお会いしたことが強く印象に残っています。昨年は「心がザワザワする」できごとが続き、暗い気持ちで新年を迎えました。

新年第1回の「ちょっと一言」で特に強く共感したところが「いのちにとってどうでしょう」という言葉です。そのために今年は女性と日本人を積極的に出そうというお考え、とても楽しみにしています。私は、教育に携わりながら、教育の世界でもこの意識がかなり希薄になっていることを危惧しています。文科省は“命を大切にすると”か“いじめをなくす”とか“道徳を重視する”など言っていますが、教育現場では“学力テストの点数向上のための教育”が求められている現実があります。また、小学校では道徳と英語の教科への格上げが決まりました。これまででも精一杯だったのに、教員の負担と苦勞がますます増え。負担が増えれば増えるほど教育の質はどんどん落ちることは目に見えています。

“経済的豊かさを維持するための教育”“学力テストのための教育”から、“いのちを大切にする教育”へ転換する時は「今」です。いつまで続くかわからない福島原発被害で苦しんでいる人の気持ちを思いやれるような子供を育てなければならないと思います。

昨年、中村先生は私への返信で、「声高でなく」という言葉をくださいました。年末年始、『百年の手紙』や『想像するちから』など、先生が書評等で推薦された本を少しずつ読み進めました。とても大切なことを考えさせる本です。今年一年、本でも人間でも、本物と出会いを大切に、声高でなく歩む一年にしたいと思います。

余談ですが、年始に、鶴見和子さんと対話された『四十億年の私の「生命」』を購入していたので、鶴見和子さんの名前が出てきたときには、とてもびっくりしました。鶴見さんの忘れられないエピソードなどありましたらお聞かせください。

お返事

投稿日：2014.01.08 名前：中村桂子館長

鶴見さんとの話、実はお求めいただいた「四十億年の私の生命」の中で話し

合ったことです。“ちょっと一言”の中で紹介した言葉がどのような文脈で語られたかがおわかりいただけると思います。それはお書きになっている教育への疑問ともつながるものです。安倍首相の口から出る言葉はすべて（と言ってよいと思います）「いのちにとって」という判断からは「違います」と言わざるを得ないことばかりです。ということは、立ち位置がまったく違うということです。その位置から見れば、今年の重要課題は武力で闘える国を作ることであり、そのための道徳教育をすることでしょう。でも本当の重要課題は皆が生き生きと暮らせる社会を作ることだと思うのです。とにかくこの声を出していくしかありませんね。



中村桂子の「ちょっと一言」

日本女性は西施の末裔？

投稿日：2014.01.07 ニックネーム：弥勒魁

天勾踐を空しうするなかれ、時に范蠡無きにしも非ず
というのは隠岐の島に幽閉されようとしている後醍醐天皇を救わんとして果たさず、傍らの桜の木の幹を削ってしたためた児島孝徳のメッセージですが、勾踐は戦国時代の越の王様で范蠡はその將軍です。この范蠡がライバル国呉の王様の夫差の首を取らせるために使ったのが西施と言う絶世の美女。越にとっては救国の女傑です。越はBC334に中国史からは姿を消し、末裔はベトナムと日本へ逃れたらしい。この両国とも国が危機に瀕すると救国の女傑が現れるのです。本邦で、卑弥呼とか神功皇后とか言われる方々は、その女傑であられたらしい、のです。

古の呉の都は現在の蘇州ですが、そこでも西施のことは褒め称えこそすれ、くさしたり、恨んだりはしていません。

中国人には、そういう面もあることを知ると同時に、日本女性は自信を持って行動してください。

お返事

投稿日：2014.01.08 名前：中村桂子館長

たいへんなお話につながりびっくりしています。私の場合、普通の人でもそれなりのことができるというところで、コツコツとやります。よろしく願いたいします。



中村桂子の「ちょっと一言」

あたらしい年へ

投稿日：2014.01.06 ニックネーム：たま

新年 おめでとうございます。

中村先生のおっしゃる “いのちにとってはどうでしょう” というお言葉に 救われた様な気持ちになってしまったのは 多分 わたくしだけでは無いと思います。

人間が 共存し 毎日の暮らしや ゆったりと時間をかけて育んだものを 本当に大切にしたいと感じながらも 権力や金力の経済社会に 心や命が つか 取り返しの付かない事態になってしまうと はらはらしています。

中村先生の著書を読ませて頂くたび いつも何故かとってもほっとした気持ちになり 寛いでしまうのですが

いつも いのちを中心に判断され 日本人として 又 命を産み出す女性としての感性ならではなのだと あらためて感じました。

今年は 気持ちよく暮らせるような 良い年であってほしいです。

これからの 生命誌への 益々の御発展 願っております。

お返事

投稿日：2014.01.08 名前：中村桂子館長

本当に気持ちよく暮らせる年にしたいですね。実は今朝、新幹線に乗る東京駅までの電車で、キャリーバッグを持った若い女性と乗り合わせました。揺れるたびに周囲の人がそちらへ動くと、不快な顔をしてその人を脅す様子を見せるのです。バッグがありますから、直接触れるわけでもないのに。ハリネズミみたいでした。何でそんなに不機嫌なのか、東京の街ではしばしばこういう人に出会います。自然の中にいる時にそんな態度はとりませんね。

新春一番の感動をありがとうございます。

投稿日：2014.01.04 ニックネーム：hon no mushi

正月早々3連投稿になってしまい申し訳ありません。
生命誌78号の中沢先生とのお対談は、お正月にとつぷりと読もうととっておいたのですが、今日拝読してみて、ひどく興奮させられましたので、思わず申し上げずにはられません。何しろ触発される箇所が多く、脳みそを揺さぶられたみたいで…

まず、「不思議な環」、「対称性」…

…一見関係ないようなこの二つの概念から、私は一つの「存在」に思い至りました。

高校までの数学は算術だと思いますが、大学の位相幾何とか代数幾何とかでは、数（要素）についての重要な三つの決まり事①存在、②対称律、③推移律から始まります…「対称性」には、鏡やガラスに映った世界がまるで別世界のように感じる人が多いですが…。

メビウスの帯は視覚的にも簡単に作れ（＝実在し）ますが、それがざあーっと横に同じ輪っかが金太郎飴のようにつながっていき、ドーナツのように頭とお尻がくっつくと、それがクラインの壺です。だから理想的には無限個のメビウスの輪からクラインの壺は出来ています。「不思議な環」…少なくともその壺は知覚では非常にとらえにくい、というか無理です。でも、中沢先生が、私がひよんなことから気付いたように、果物保護用の二重ネットから、それに限りなく近いものが作れるとわかったら…その環の「存在」（前の三原律の「存在」は要素の条件でしたが、これはその集合体の実在）を確信されたことでしょうか…。

もったいないです…浅田彰さんの『構造と力』の中の「壺」が中沢先生の壺と実はつながっていて、いやそれどころか「同じもの」であるということが、誰にも気づかれずに忘れ去られてしまうのは…。「両極」から広がる、深みのある広大な思想空間が失われてしまう…モッタイナイです、本当に。こんな投稿はいくら反故にされても構わないのですが…（南方熊楠大先生の精神宇宙のお話が出ましたが、自分の中のツボはいくらでも再構築できますから…壊れても壊れても、組み上げ作り上げる、その過程がかえって面白いのかも…）。

お返事

投稿日：2014.01.08 名前：中村桂子館長

対称性人類学をとてひらたく言うと人間もネズミもカエルも同じということですね。生命誌はそこから始まっています。

その他

みんな、もう、わかってるんじゃないの？

投稿日：2014.01.03 ニックネーム：hon no mushi

中村先生の御著書の概観で、とても当たり前のように思えることが書かれていたのを思い出し、度十のお話など頭をかすめたことがあり…元日の投稿と共に反故になるかもしれませんが、追って申し上げます。

今この時を生きているだけでは見えてくるもの聞こえてくるものにただ反応するだけですが、野には春には芽が出て葉を広げ花が咲き…という一年の現象がこれから起こるといことは誰にでも〈わかっている〉ことだと思います。私なりに言い換えれば、虚数のような可能性の世界（と言っては身も蓋もないかもしれませんが）、そこにいずれは生まれ出づる場（を保証するかのような陰の世界）が「仕込まれている」のが見え隠れし、展開し花ひらく時間が折り畳まれているツボのようなものを、星座のアクエリアスのように抱えて待っている…度十の話を聞いた大学教授にも、その度十が言葉にできなかったが稚拙でも表現しようとした、度十自身の思想的な陰の世界が感じ取れたからこそ、林を残そうとする方向に心が動かされた…ということなのだと思います。

関係ないようですが、法律やモーセの十戒のような公けの決まり事は、それが皆に自然に受け入れられて、その法律が木の幹のように大地の養分を吸い上げて、まわりに民草が生い茂るようになれば、良い法律なのだと思います。そして法律としての役割を終えても、そこにまだ民草が生い茂り続けるなら、その消えた樹は、そこにいた誰でも覚えていて、文化となっていくというのはそういうことなのだと思います。昨年末の特定秘密保護法は、まるでコンクリの柱のようで生き物も寄り付かなそう、他の軍事大国に比肩する高見櫓をその上に造るための土台のようで、その周りに生えそうな未来の陰の気配はあるけれど、生えてくるのは機関銃ばかり…というのはイヤです。

…最後に、つましい詩が二つ思い浮かびました…

さむぞらに
しばしのおわかれ シジュウカラ
すってんころりん
せい はてて
それじゃまたさよなら

かきもせず
きこえもしない
くるしみを
けそうとしたの
こだわりもなく



その他

古くから何度も抱いてきた、深く新鮮な感動を

投稿日：2014.01.01 ニックネーム：hon no mushi

新春明け、時間が空いたので、懐かしい本を開いて物語の時間が流れ出すのを楽しんでいたところ、自分の体とほんの一瞬、ピシッと響きあう二つの世界の表現に出会いました。無遠慮ながらこの場で申し上げたいと思います。

まずは、M.エンデの『はてしない物語』（岩波書店）から…

「幼ごころの君って、いったいどういう方なんだろう？…幼ごころの君ご自身はけっして権力をふるわれぬ。まるで存在しておられないようだ。それなのに、すべてのものの内におられる…」…

『その神秘がすっかりわかるものがあるとすれば、そのものは、わかったことで己（おの）が存在を消し去るわけだ』

…上の本を読んでいる時、否応なく対応せざるを得ない外の現実の世界とは別の想い、内なる世界が体の中から湧き上がってくるのを感じます（それはまるで外と内の世界が背と腹をなしながら一体化している、筒状二重クッションネットで作る簡易型クラインの壺のように…）

そしてもう一つは『金子みすゞ童謡集』から、

蓮と鶏

泥のなかから
蓮が咲く。

それをするのは
蓮じゃない。

卵のなかから
鶏（とり）が出る。

それをするのは
鶏じゃない。

それに私は
気がついた。

それも私の
せいじゃない。

…という作品ですが、人の心を言葉で捉えるのは難しいのに、なんとあっさりこの人はやってのけるのだろう、と感心します。何ととっても言葉が生き生きしています…

お返事

投稿日：2014.01.08 名前：中村桂子館長

私もエンデや金子みすゞを時々開いて見て、心に響く言葉に出会うのを楽しみにしています。すてきな言葉のもつ力は大きいですね。



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743